

# COOP Calendar

9月号

September 2016

Vol.137



宮城県協同組合こんわ会  
「2016年度委員総会」

## CONTENTS

<p>県連役員エッセイ……………1 佐久間徹夫理事「協同活動と生産現場の時流」</p> <p>宮城県生協連の活動……………2 ・宮城県協同組合こんわ会 「2016年度委員総会及び学習会」</p> <p>復旧・復興のとりくみ……………3 みやぎ生活協同組合 松島医療生活協同組合 大学生協同組合東北事業連合 宮城労働者共済生活協同組合</p>	<p>熊本地震への支援活動……………6 みやぎ生活協同組合 生活協同組合あいコープみやぎ</p> <p>会員生協だより……………7 みやぎ生活協同組合 生活協同組合あいコープみやぎ 宮城労働者共済生活協同組合</p> <p>環境のとりくみ……………9</p> <p>平和のとりくみ……………10</p> <p>消費税率引き上げをやめさせるネットワーク宮城の活動…11</p>	<p>NPO法人 介護・福祉サービス非営利団体 ネットワークみやぎの活動……………12</p> <p>NPO法人 消費者市民ネットとうほくの活動……………13</p> <p>宮城県ユニセフ協会の活動……………14</p> <p>公益財団法人 MELONの活動……………15</p> <p>行事予定……………16</p> <p>新聞記事紹介……………17</p>
--	---	--

### 『協同活動と生産現場の時流』

宮城県生協連理事

佐久間 徹夫

(みやぎ仙南農業協同組合常務理事)



私は、昭和 40 年代半ば農業情勢が大きな変革期を迎えた時代背景の中で、旧角田市農協に 46 年に奉職しました。当時は正に、1 農協組織内の協同活動から農協間の協同活動や、宮城県民・学校生協との取引が始まり生産者と消費者の交流事業が始まった翌年でした。

旧角田市農協は、昭和 38 年に 7 農協が合併し、宮城県内随一のマンモス農協として発足し、“角田市農業の近代化”をめざし、合併メリットを生かした生産・流通・コミュニティー施設建設等の事業を展開しました。一方では、仙南地域の 7 農協で仙南広域営農団地の構想をもとに、仙南農産加工農業協同組合連合会（現株式会社加工連）が発足しました。

そうした中で、53 年より始まる第一期水田利用再編対策（減反政策）は避けては通れないと

判断し、行政・農協が一体となり 50 年 12 月に関係団体で営農推進室を設立。「農協がなぜ米づくりを休む説明するのか」と厳しい意見が続出する中、米価安定のため、52 年秋から基盤整備と絡めた 100ha 規模の集団転作（麦作）が始まり、数年間集団での生産調整が続き 250ha まで拡大していきました。

この事業は、担い手農業者の育成を図るべく、農業機械銀行や農業労災保険組合を設立させ、また一方では、水稻・園芸・畜産事業への付加価値を求め、生協との交流事業等を通じて、生産・営農活動を活発に展開しました。

平成 10 年、2 度目の農協合併により組合員 34,699 人の“みやぎ仙南農協”が誕生しました。

現在の農業を取り巻く環境は、少子高齢化や食の変化による主食米の消費減少、過剰作付けに

よる米価下落の影響（再生産割れ）もあり、28 年産米の生産者が正組合員比 23%まで落込み、次世代への原風景たる農村環境継承が懸念されます。

また、野菜の調理法の変化による流通・販売環境の変化、農地の集積加速による機械設備投資の過剰、TPP 問題、原発被害等々により、所得減少や後継者不足に拍車がかかっている状況です。

さらに、農協法改正による農協改革の断行や全国的に組織再編（農協の合併）が進み、当農協も 31 年目途に 3 回目の合併に向け協議が始まりました。

この様な情勢ですが、協同運動体の更なる強化対策を構築し、消費者・生産者交流事業を通じた農協らしい事業を展開しながら、農業者の所得増大・農業生産の拡大・地域の活性化実現のため取り組みしてまいります。

## 宮城県生協連の活動

### ● 宮城県協同組合こんわ会「2016 年度委員総会及び学習会」

宮城県協同組合こんわ会（宮城県農業協同組合中央会、宮城県生活協同組合連合会、宮城県漁業協同組合、宮城県森林組合連合会、日専連宮城県連合会の5団体で構成）では、7月20日（水）15時からJAビル宮城会議室において、「2016 年度委員総会及び学習会」を開催しました。構成団体の各会長をはじめ17人が参加しました。

委員総会では、2015年度活動報告及び収支決算、2016年度活動計画及び収支予算、2016年度会費、役員を選任について決定しました。

2016年度の活動では、協同組合間提携活動の展開、「協同組合」組織の発展に向けた取り組み、県産県消運動の推進、東日本大震災からの復興の加速化、

地球環境を守る運動等に、積極的に取り組むことを確認しました。

また、震災から5年が経過し、震災の復旧・復興に向けて、各協同組合がそれぞれの事業・活動を通して、その役割を發揮しながら、組合員や地域社会の絆づくりや地域産業の発展にむけて、さらに協同して取り組みをすすめることを確認しました。

協同組合こんわ会の会長に、石川壽一県農協中央会会長、副会長に宮本弘県生協連会長理事、丹野一雄県漁協経営管理委員会会長、齋藤司県森林連会長、山口哲男日専連県連会長を選任しました。

委員総会后、協同組合間提携の実践事例を学ぶ機会として、「協同組合間提携の実現に向け

て～A&COOP 松島店」をテーマに、宮本弘県生協連会長理事が講師として、学習会を開催しました。

A&COOP 松島店は、JAグループのエコープとみやぎ生協が、2015年10月1日に開店しました。エコープ宮城松島店の店舗建て替えにあたり、隣接地にあったみやぎ生協松島店を閉店し、共同で新店舗を開設、運営することとなったものです。JAグループと生協が、店舗を共同運営するのは全国で初めての事例となります。

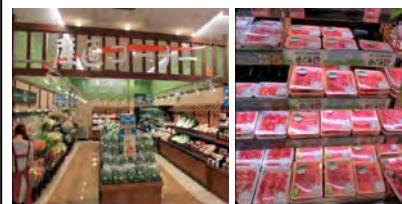
A&COOP 松島店オープンの経緯、共同運営の概要、開店後の状況等が報告され、今後の協同組合提携のあり方について考え合う機会となりました。



「協同組合間提携の実現に向けて～A&COOP 松島店」をテーマに講演する宮本弘県連会長理事



A&COOP 松島店



エコープ産直コーナー（左）  
みやぎ生協産直品めぐみ野ポーク（右）

#### 協同組合間提携の意味と今後

##### 異なる事業分野での提携

これまでは農業分野が中心

##### 互いの強みを生かすこと

生鮮品とドライや店舗運営

##### 地域に必要な機能を協同で

高齢化や過疎化に対応して

出典：宮本会長理事資料

## ● 「女性ネットみやぎ4周年のつどい」

宮城県内の幅広い女性たちが参加する「子どもたちを放射能汚染から守り、自然エネルギーへの転換をめざす女性ネットワークみやぎ」（略称：女性ネットみやぎ）の「4周年のつどい」が、7月24日（日）仙台弁護士会館において、212人の参加で開催されました。

女川原発再稼働 STOP!の思いを一つに県内で活動している団体の報告として、「脱原発みやぎ金曜デモの会」代表の西新太郎さんから金曜デモの取り組みについて、続いて「UPZ（緊急時防護措置準備区域）住民の

会」代表の勝又治子さん、「大崎健康福祉友の会」加美支部の鎌内あつ子さんから加美町の放射性指定廃棄物最終処分場反対の運動について報告がありました。

その後の「原発事故、チェルノブイリ30年、福島5年の真実」と題した獨協医科大学国際疫学研究室長の木村真三さんの講演では、未来の福島はどうあるべきか、チェルノブイリ事故とも重ね合わせながらお話されまし



講師の獨協医科大学国際疫学研究室長の木村真三さん

た。

会場からも活発な質疑応答があり、「守りたい！いのち・くらし・子どもたちの未来」の思いを共有した「つどい」になりました。

## ● 学習会「原子力発電に頼らない社会を目指して～女川原発再稼働について考える～」

8月2日（火）みやぎ生協文化会館ウィズにおいて、みやぎ生協平和委員会・わたしのくらし委員会・環境研究会の合同企画として、「原発の危機から住民の生命と財産を守る会」事務局長の高野博さんを講師にお迎えして学習会を開催し57人が参加しました。

初めに、2012年に公表した「みやぎ生協の原子力発電に関する見解」を確認しました。

その後、危機一髪だった3.11その時の女川原発の状況や、安全神話に寄り掛かった危機管理

の甘さなどについて、高野博さんから話を聞きました。

会場には年配の男性から若いママまで、幅広い年齢の方々が集まりました。

参加者から、「専門的なお話も分かりやすく説明していただきました。報道では知りえないことを知り、考えさせられました」など活発な意見交換がなされました。



講師の「原発の危機から住民の生命と財産を守る会」事務局長の高野博さん

女川原発再稼働が取りざたされている今だからこそ、貴重な学習となりました。

（生活文化部 昆野加代子）

みやぎ生協

● 災害時における応急生活物資の供給協定を締結している自治体との懇談会

みやぎ生協では、災害時応急物資協定を締結している自治体との懇談会を、年1回開催しています。3回目となる今年は、8月3日（水）みやぎ生協文化会館ウィズにおいて、11の自治体、関係団体、みやぎ生協、県生協連、日本生協連から27人が出席して開催しました。

始めに、宮本弘理事長と宮城県環境生活部消費生活・文化課消費者行政班主幹の田村和江さんから挨拶がありました。

続いて、みやぎ生協から「商品調達と配送について」説明し、その後、2つのグループに分か

れ、生協の説明内容や自治体の課題や要望などについて協議しました。多くの質問や要望などが出され、活発な質疑応答を行うとともに、自治体担当者同士のコミュニケーションの場ともなりました。

自治体の担当者からは、「よく理解できた」「勉強になった」との声が出されました。今後も締結自治体と、顔が見える関係を維持し、何かあった場合きちんと連携や対応ができるようにしていきます。

（機関運営部機関運営課

課長 稲葉勝美）



懇談会の様子



協議では多くの意見や要望が出されました

松島医療生協

● 転居先での居場所づくりを支援していきます

東日本大震災から、5年半が経過します。

災害公営住宅建設や自宅再建が進み、仮設住宅での「お茶会・



仮設住宅で行われている「お茶会・健康相談&健康チェック」

健康相談&健康チェック」に、参加する被災者の方々も少なくなってきました。

転居先でも安心して暮らせる地域であるように、「人と人のつながり」が、今後ますます大切になってきます。新たなコミュニティづくりを、どのような形で応援できるか？

9月に宮城県民主医療機関連合会（宮城県民医連）と連携し、松島町や東松島市の災害公営住宅にお住いの皆さんへ「アンケ

ート調査」を行います。このアンケートは、災害公営住宅居住者の要望や課題を把握し、今後の支援活動につなげることを目的としています。

松島医療生協はこれからも、被災された方々や地域のだれもが気軽に集うことのできる「居場所づくり」など、暮らしを支える活動を行っていきます。

（専務理事 檀崎祐夫）

大学生協東北事業連合

●「未来の大学生応援募金」大学生協仙台会館でバザー開催

7月11日（月）大学生協仙台会館において、今年で3回目となる「未来の大学生応援募金」企画のバザーが開かれました。

「未来の大学生応援募金」は、東日本大震災で被災した3県（岩手・宮城・福島）の高校を応援しようという募金活動です。

バザーには採れたて野菜をはじめ、家庭で不要になった品物や、大学生協で取り扱いのある飲料やお菓子、また東北大生協

の焼き立てメロンパンや弘前大生協オリジナルのアップルケーキ、古今東北の亘理そば等が並びました。

昼休みを挟み12時から14時まで、2階のロビーを会場に、会館の生協職員など60人以上の皆さんが、100円の淹れたてコーヒーとお菓子のサービスを楽しみながら、バザーに参加してくれました。

バザーの売上げは86,640円



一番人気の新鮮採れたて野菜

で、募金額は24,264円となりました。

（大学生協東北ブロック

五十嵐のり子）

宮城労働者共済生協

● 東日本大震災を風化させない取り組み「植樹プロジェクト」

東日本大震災から5年が経過しましたが、この間、復興支援（社会貢献）活動として『復興支援きずなりレーコンサート』や、『やなせたかしのメルヘン絵本』のタペストリーを使っての読み聞かせ会をはじめ様々な活動を行ってきました。

こういった復興に向けたプロジェクトの一つに「植樹プロジェクト」があります。東日本大震災によって、被災県の沿岸部を中心に多くの緑がなくなったことから、被災地の子どもたちが暮らす町・地域の環境保全を目的に、子どもたちが取り組む学校林や校地内および市街地の

植樹・植林への支援を継続して実施しています。

5月27日（金）気仙沼市本吉町の市立津谷小学校で、記念植樹と式典を実施しました。記念植樹は、津谷小学校の「緑の少年団」代表の児童とハナミズキを植え、式典では「緑の少年団」へ帽子とスカーフを贈りました。

宮城労働者共済生活協同組合（全労済）は、被災地の子どもたちの未来のための植樹活動をはじめ、防災・減災の取り組み等、これからも「保障の生協」として、様々な分野で社会貢献活動を続けてまいります。

（専務理事 畑山耕造）



気仙沼市立津谷小学校で記念植樹



全労済から贈った帽子とスカーフをつけた子どもたち

## 熊本地震への支援活動

### みやぎ生協

みやぎ生協は、日本生協連やコープ共済連などからの要請に応え、4月20日(水)から随時、25人の職員を熊本へ派遣しました(8月17日現在)。

6月からは、熊本県益城町に設置された災害ボランティアセンターの運営を支援するため、生活文化部、共同購入、店舗開発部の職員を派遣しました。

ボランティアセンターに到着した職員は、全国の生協職員と協力しながら、被災者からボランティアのニーズを聞き取り、

ボランティア団体とマッチングする「ニーズ班」や、ボランティアが被災地で使用する道具を点検・管理する「資材班」などで活躍しました。地震から日が経つにつれ、ボランティアに関する問い合わせが減少しているようですが、ボランティアでは対処できないニーズもまだ多く寄せられています。

また、東日本大震災の被災地宮城からの支援に、感謝の言葉をかけられることもあったそうです。



被災者から、一般ボランティアが対応できるニーズを受け付ける「ニーズ班」の様子

熊本の被災者の方々と復興を支援するために、今後も被災地支援に取り組んでいきます。

(機関運営部広報課

河端真唯)

### 生協あいコープみやぎ

あいコープみやぎは、発災直後の緊急支援に続いて、8月に第2次熊本支援に取り組みました。

5陣10人の職員が、順次熊本入りし、現地の支援団体「よか隊ネット」と合流して、避難所での炊き出し、被災者の自宅片付けや引っ越し、エアコンの取付けから網戸の修繕まで、きめ細かな「顔の見える支援」を行ないました。職員達は猛暑の中、5年前に受けた支援の恩返しに精一杯取り組みました。

高橋千佳理事長と私も、8月9日(火)～11日(木)に熊本を訪れ、組合員から寄せられた支

援募金を、「よか隊ネット」と九州・熊本の生協「グリーンコープ」へお届けし、被災者の引っ越しのお手伝い等もさせていただきました。

熊本市街は賑やかで活気に溢れていましたが、そこから車で数十分の益城町には、断層に沿って殆ど家が倒壊している地域があり、しかも倒壊家屋の解体やガレキの片付けはまったく進んでいないのです。避難所には今なお1,700人の方々がおられ、活気ある街との「格差」が際立っていました。

これから見えづらくなるであろう被災者の暮らしを見つめ、



被災された方の荷物移動の手伝い(熊本市)



4ヶ月経っても倒壊家屋はそのまま(益城町)

寄り添っていく支援が必要だと感じました。

(専務理事 多々良哲)

## みやぎ生協

### ● フードドライブのとりくみ

7月26日(火)みやぎ生協桜ヶ丘店で「フードドライブ」の取り組みを開催しました。

「フードドライブ」は、食品を持ち寄り必要としている方へ届ける取り組みですが、安全性を考慮し、店内で当日に購入した食品を対象としました。すぐに食べられるため支援の要望が高い「カップ麺」「レトルト食品」の寄付を呼びかけ、90の方に計375食をご提供いただきました。

寄付いただいた食品は、コープフードバンクを通じて、必要としている生活困窮者支援団体や福祉施設等へお届けします。ご協力いただいた皆様、ありがとうございました。

この後、10月15日(土)の世界食糧デーに合わせ、右記のみやぎ生協店舗で取り組みを行います。

(生活文化部 福祉・文化活動事務局 山田尚子)



店内でメンバーにフードドライブの紹介をする様子

#### 〈フードドライブ開催のお知らせ〉

10月15日(土) 10:30~14:00

〈開催会場〉

\*国見ヶ丘店 \*西多賀店 \*愛子店  
\*利府店 \*幸町店 \*明石台店

### ● 高校生・大学生が「コープフードバンク」を見学&体験

8月10日(水)尚絅学院大学の企画で「高校生のためのエコツアー」に、県内外の高校生18人と大学生8人、職員4人の総勢30人が、コープフードバンクについての学習と見学・体験ボランティアに参加されました。

午前中は、どのようにして食品ロスが生じるのか、またそれをどのようにフードバンクを通じて活用されているのかについて学習していただきました。

参加した半分以上の学生は、フードバンクについて知識がなく、「食品ロス」の多さと、逆に「食べ物を必要としている人たちがいる」ということに驚いていました。

午後からは、フードバンクの倉庫に移動し、実際に賞味期限ごとの仕分けや食品へのシール貼りを体験していただきました。

最後のまとめでは、「食品を廃棄するということは、ただ、食べ物を捨てるだけではなく、製品になるまでのエネルギー資源やそれぞれ関わってきた人たちの労力等までも捨ててしまうことになってしまうことに気づいた」と発表がありました。

今回のエコツアーで、「食べ物の大切さ」と「環境への配慮」を学んでいただけたのではないのでしょうか。

(コープフードバンク事務局長 中村礼子)



フードバンクについて学習する様子



フードバンクの倉庫で食品の仕分け等をする様子



## 会員生協だより

### 生協あいコープみやぎ

#### ● 講演会「遺伝子組み換え食品 20 年目の警告」

6月22日（水）エルパーク仙台において、オルタナティブトレードジャパン政策室長の印 鑰 智 哉 さんを迎え、遺伝子組み換え（GM）食品の講演会を、約 60 人の参加で開催しました。

講演では、GM 食品による健康被害（アレルギー、ガン、リーキーガット等）が疑われる症例やデータが数多く紹介され、GM 食品の摂取をやめるとそれらの症状が改善するという報告がありました。ただし、それらの症状は農作物の残留農薬や、

加工食品の食品添加物等の複合的な影響とも考えられます。GM 食品を避けるということは多くの加工食品を避けて、安全な食材を選んで手作りすることになるからです。

私たちには食べものを選ぶ権利があります。5%の人が食の選択を変えれば市場は変わると言われます。現在、世界的に GM 作物・食品を規制する動きが広がり、GM 禁止国・地域は 38 に及ぶということです。印鑰さんは「無理に働きかけなくてよい。



講師の印鑰智哉さん

話を聞いてくれる人に話をして、GM 食品を選ばない仲間を 5% 増やそう」とおっしゃいました。

私たち一人一人が学び、伝えることが、安全な食に直結していると感じた講演会でした。

（副理事長 高野恵美子）

### 宮城労働者共済生協

#### ● 「第 60 回宮城労済生協通常総代会」

7月29日（金）13時30分よりハーネル仙台において、「第 60 回宮城労済生協通常総代会」が、総代人 146 人中、79 人（委任状出席 5 人、書面決議 49 人）の出席のもと開催されました。

冒頭、菅野義雄理事長の挨拶



挨拶する菅野義雄理事長

があり、宮城労済生協としての東日本大震災および昨年 9 月の台風 18 号による宮城県内の被害、4 月の熊本地震の災害対応状況と防災・減災の取り組みについて触れられました。

以降、議案審議について畑山耕造専務理事より、2015 年度の活動経過報告が提起されました。

特徴的な活動として、「賀川記念館(神戸)」、阪神・淡路大震災の記録を今に伝える「人と防災未来センター(神戸)」、「北淡震災記念公園(淡路島)」への視察研修を実施しました。また、社

会貢献活動を精力的に行っている NPO 団体など 4 団体に対して助成を行いました。

2016 年度の活動計画については、生活上の慶弔時に共済金を支払う事業である総合（慶弔）共済の普及宣伝をおこなうことが確認され、あわせて総合（慶弔）共済の制度・規約改正の提案を行い、承認されました。

全議案とも満場一致で可決され、盛会のうちに終了となりました。

（事業推進部部长 高橋正宏）

## 環境のとりくみ

生協の環境活動は、生協組合員の活動や事業における取り組みを通して、環境負荷の軽減と省エネルギー、省資源、リサイクルなどの環境保全型社会づくりに貢献していきます。組合員のライフスタイルの見直し、生産から流通・消費・廃棄までの製品のライフスタイルの各段階における環境負荷の低減等をすすめます。

### みやぎ生協

#### ● 夏休み親子企画「森と水辺の観察会 in 南三陸」

7月30日（土）に、大人13人と子ども13人の参加で、南三陸にある「こ〜ぷの森 貞任山<sup>さだとうやま</sup>」で森の観察、戸倉の浜辺で水辺の観察・水質測定の実習・生き



森での観察の様子

物探しを行いました。

南三陸には3つの“こ〜ぷの森”がありますが、貞任山は2008年～2009年にクリやヤマザクラなど多種類の広葉樹を植林し、それらの木も大きく育ち、クリは実をつけるまでに成長しています。森までの道でクロモジの葉っぱを触って匂いを嗅いだり、虫をみつけたりと、子どもたちと一緒に生物多様性を実感する機会になりました。

また水辺での観察も、子ども

たちは大喜びで海辺の様々なものを探し回っていました。

津波被害地跡を、講師の説明を聞きながら視察するなど、南三陸の今を知る機会ともなりました。参加者からは、「講師のお話を聞くことで、一人で来たのではわからないことも良くわかりました」「いろいろな生き物に出会えて楽しかった」など、好評でした。

（生活文化部 昆野加代子）

### 生協あいコープみやぎ

#### ● 環境学習会「除菌剤・消臭剤・香料で健康被害？」

7月12日（火）日立システムズホールにおいて、環境学習会を開催し、89人が参加しました。

細菌の多くは、私たちの体を支えてくれる大切なものです。

「除菌・防臭ができる」などの製品を使って、細菌を取り除くことが本当に必要なのか、環境問題を専門とするジャーナリストの天笠啓祐さんに教えていただきました。

除菌・消臭剤に多く使用されている合成界面活性剤は、細菌

の細胞膜を破壊するので、吸入すると脳にまで到達して細胞に影響を与えるということでした。また、消臭剤や合成香料に含まれる化学物質と紫外線が反応して光化学反応を起こすので、家庭内でも蛍光灯を使っていれば光化学スモッグが発生している状態になるそうです。合成香料からはPM2.5が発生し、また小児ぜんそくやアトピーの一因とも言われています。

あいコープみやぎは、今後も



学習会の様子

学習会の開催や、香料の自粛をはじめ不要な化学物質を使わないことを呼びかけていきます。

（石けん環境委員会

担当理事 佐藤美恵）

## 平和のとりくみ

わたしたちは、「平和とよりよき生活のために」を生協のスローガンに取り組みを行います。唯一の被爆国の国民として、核兵器廃絶を訴えるとともに、戦争放棄をうたった憲法9条を含めた日本国憲法によさと大事さを学び、話し合い、多くの人々が平和を守るネットワークへ参加する活動を広げていきます。

### みやぎ生協

#### ● 満員御礼！平和映画会 「アオギリにたくして」

映画「アオギリにたくして」は、結婚式の3日前に被爆して片足を失くした女性が、真っ黒に焼け焦げたアオギリが芽吹く

のを見て立ち直り、広島平和記念公園内の被爆アオギリの下で、語り部を続けたひとりの女性の物語です。

7月28日(木)パレットおおさき、7月29日(金)石巻アイトピアホール、8月3日(水)仙台シルバーセンターの3会場で4回の上映をおこない904人が鑑賞しました。

上映後は、映画の統括プロデューサー中村里美さんと、音楽監督伊藤茂利さんによる「トーク&ライブ」が行われました。

中村さんは6月におこなったアメリカでの上映についてふれ、「現地で『原爆』と言うと、『パ



上映後に行われた「トーク&ライブ」  
伊藤茂利さん(左)中村里美さん(右)

ールハーバー』と返ってくる。原爆の下で、一人一人の市民にどのような人生があったのかを伝えると原爆廃絶をわかってくれます」と話されました。ライブでは、参加者全員で合唱も行いました。



#### ● 「2016 ピースアクション in ヒロシマ報告会」

8月20日(土)みやぎ生協文化会館ウィズにおいて、「2016 ピースアクション in ヒロシマ報告会」を開催し37人が参加しました。

8月4日(木)～8月6日(土)に開催された「2016 ピースアクション in ヒロシマ」に、みやぎ生協から参加した親子2組、高校生1人が報告を行いました。

それぞれが参加した被爆者の

証言を聞く会や、原爆の爪跡を見学するなど平和行動を紹介し、「核兵器のない世界にしたい」「若い世代が被爆者の思いを引き継いで広げなければ」と報告しました。

また、参加者全員でクイズや合唱などを行い、平和への思いをひとつにした報告会となりました。(生活文化部・県連担当課長 松本研一郎)



ヒロシマでの平和行動を報告



広島平和記念公園にて

# 消費税率引き上げをやめさせるネットワーク宮城の活動

「消費税率引き上げをやめさせるネットワーク宮城(略称:消費税ネット)」は 2002 年に設立され、消費税率引き上げに反対する一点で集まった宮城県内の事業者・消費者の団体・個人のネットワークです。前身は、1978年に同じように商業者団体、市民・消費者団体など多数の幅広い団体が集って結成した「一般消費税を止めさせる宮城県民会議」です。会員数は、団体 90、個人 59 です。(2016 年 3 月現在)

## ● 2016 年度「消費税アップ反対川柳」の受賞作品が決定しました！

『消費税アップ反対！』の願いを込めた消費税川柳に、会員や県外など多くの方々から、776 句ものご応募をいただきました。

応募作品の中から世話人会において、入選作品 36 点を選出し、大賞作品 1 点と特別賞作品 2 点を決定いたしました。

7 月 29 日(金)～8 月 8 日(月)まで、入選した 36 句を書き込んだ吹流し型と行燈型の「消費税川柳七夕」を展示し、仙台七夕にお越しの皆様、『消費税アップ反対』を訴えました。

今年もみやぎ生協家計委員会

☆大賞『上げるたび 格差広がる 消費税』

☆特別賞『七夕は 一夜のロマン 税年中』

☆特別賞『一億総 カツカツ社会にする 10%』



一番町ブランドーム商店街ベルモーズビル前



三越隣のロッセリア店前

の方々、製作を担ってくれました。展示には、日専連宮城県連合会や一番町商店街の方々の

ご協力により行われました。

(事務局 加藤房子)

2016年度「消費税川柳」入選作品	1	上げるたび 格差広がる 消費税	19	駄菓子買う 孫は早くも 納税者
	2	そういえば 昔はなかった 消費税	20	延期して 恩売っている アベノミクス
	3	赤字では 払いきれない 消費税	21	上げるより 下げて景気を 上げてみる
	4	消費税 上げればきつと リーマン級	22	ウォーキング 今日も安売り チラシ持ち
	5	手を伸ばし 税抜き価格 手を止める	23	越後屋と 悪代官の 消費税
	6	増税で 明るい未来 見えません	24	核心の 福祉の用途は オブラート
	7	いくつある？ 増税なければ 買ったもの	25	消費税 上がり暮らしの 質下がり
	8	火の車 あぶらを注ぐ 消費税	26	いつまでも あると思うな 民のスネ
	9	税プラス 金利マイナス 意欲ゼロ	27	消費税 程に上がらぬ 手取り額
	10	消費税 上げたら下がる 買う気力	28	外税と 知らずにレジで 泣き出す子
	11	ちゃんととれ タックスヘイブン 見逃すな	29	入りよりも 出に不信あり 消費税
	12	アベノミス 消費税分 昇給無し	30	美しい 消費税無い 日本国
	13	生活に 困らぬ人が 決める税	31	ドラえもん 増税止める 道具くれ
	14	モナリザを ムンクに変える 消費税	32	消費税 消費意欲を 消費する
	15	増税で やぶられていく 将来図	33	すぐ上がる 糖と血圧 消費税
	16	8パーを 10パーにして 日本死ぬ	34	七夕は 一夜のロマン 税年中
	17	消費税 一先ず安堵 しかし先	35	虎視眈々 出番伺う 10の段
	18	五八三(ごわさん)で 終って欲しい 消費税	36	一億総 カツカツ社会にする 10%

私たちは、いつでも、だれでも安心して暮らせる社会をめざしています。介護が必要な人にとって、体のケアだけではなく、心のケアも念頭においた利用者本位のケアプランが作成され、安心して介護サービスを受けられることが最も大切です。私たちは、知恵と力を合わせ、良質な介護サービス提供と健全な事業運営のためにいっそうの研修にはげむとともに情報を共有しネットワークをひろげ、もって要介護者と介護者の人権擁護(尊重)、地域住民の福祉向上に資することを NPO 法人介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ(略称:介護・福祉ネットみやぎ)の目的とします。

### ● 2016 年度「苦情解決の第三者委員研修・情報交流会」

7月13日(水)13時30分から、フォレスト仙台5階501会議室において、「苦情解決の第三者委員研修・情報交流会」を開催し、第三者委員、共同委嘱する団体の実務担当者等、事務局を含め39人が参加しました。

苦情解決の第三者委員は、設置の必要を認めた介護・福祉ネットワークみやぎの参加団体が、福祉サービスの苦情解決に社会性や客観性を確保し、利用者の立場や特性に配慮した適切な対応を推進するために共同で設置(委嘱)するものです。参加団体から、一年間の苦情を委嘱した委員に報告した後、研修会を行ないました。

今回の研修では、『「高齢者を取り巻く問題」～貧困、虐待、認知症列車事故判決等を中心に～』をテーマに弁護士の佐藤由紀子さん(仙台弁護士会)より、高齢者の方々を取り巻く環境の変化と事件・事故の事例を通して、その原因と背景にある問題・課題について講演をしていただきました。

まず、冒頭で、将来的な超高齢化社会への移行や、高齢者のための国連原則(自立、参加、

ケア、自己実現、尊厳)の説明後、具体的な事例や数値をもとに、高齢者を取り巻く問題として、貧困や虐待について解説していただきました。

貧困においては、日本の相対的貧困率はOECD加盟国中6番目に高く、生活保護受給世帯の45.5%は高齢者世帯が占めているのが現状です。高齢者が貧困になる原因としては、年金制度の問題、住居費や医療費などによる直接的な生活費の過大な負担の他に、親に経済的に依存する子ども世代の貧困という社会構造的な背景もあるようです。

一方、人生を尊厳をもって過ごすことは、介護の有無に関わらず誰もが望むことですが、高齢者を介護する家族や介護施設職員による虐待が大きな社会問題になっています。家庭での虐待では、夫婦や親子など一番身近な間柄による虐待の発生率が高く、その原因として、家族の介護疲れやストレスが考えられます。一方、施設での虐待の原因として、教育や知識不足、介護技術の未熟さがあげられ、介護業界の就労環境の過酷さが背景にあると考えられています。



講師の佐藤由紀子弁護士

次に、認知症発症の要介護者による列車事故の判決について、解説いただきました。この裁判は、認知症高齢者を介護する家族の監督義務が争点となり、判決からは、献身的に介護するほど監督義務責任を問われる可能性が高くなるという、現法規の矛盾が示されたものでした。認知症の人の事故をどう防ぐか、起きた事故の損害をどう保障するかといった高齢化社会の課題を、個人の責任とするのではなく、社会全体のコストとして考えていく社会的コンセンサスと社会システム構築の必要性をご指摘いただきました。

今回の学習で、実際の介護現場における高齢者の抱えている問題の背景を理解することができました。

(事務局長 渡辺淳子)

## NPO法人 消費者市民ネットとうほくの活動

消費者市民ネットとうほく(略称:ネットとうほく)は、2014年3月3日特定非営利活動法人として成立し、東北には未だない「適格消費者団体」認定を目指して活動しています。消費者の皆さんの「安全・安心な生活を送る権利」が守られる社会の実現に向けて活動していきます。

### ● 第2回「2016年度ネットとうほく消費者被害事例ラボ」

～外国為替証拠金取引(FX)等のインターネットを通じた金融取引について～

第2回「2016年度ネットとうほく消費者被害事例ラボ」は、7月7日(木)午後6時30分から仙台弁護士会館において、「外国為替証拠金取引(FX)等のインターネットを通じた金融取引について」をテーマに、小笠原奈菜山形大学准教授(ネッ

トとうほく検討委員)が報告しました。学識者、弁護士、消費生活相談員、行政職員等22人の参加がありました。

FX取引の特徴、問題点、また契約条項と関係する法律、裁判例などについて報告が行われ、インターネットにおける申込み

の問題点等についての意見交換も行われました。

今後は、第3回/9月8日(木)、第4回/11月10日(木)、第5回/1月12日(木)、第6回/3月9日(木)に予定されています。

※ラボはラボラトリーの略、研究所の意味

### ● 宮城県消費生活セミナー「若者を取りまくトラブルについて考える」

～インターネットトラブル、マルチ商法、奨学金問題、ブラックバイト～

8月18日(木)午後1時から、せんだいメディアテーク7階スタジオシアターにおいて、宮城県、仙台弁護士会、ネットとうほくの主催で、消費生活セミナー「若者を取りまくトラブルについて考える～インターネットトラブル、マルチ商法、奨学金問題、ブラックバイト～」を開催しました。教育関係者(教職員、大学生等)、行政職員、弁護士、消費者団体、一般市民など多くの団体、多くの世代から155人の参加がありました。

基調講演では、日本女子大学の細川幸一教授が「若者を取りまく消費者問題と消費者教育の重要性」をテーマに、大学生の現状と問題点について話されま

した。おとなしく、新聞やテレビ、ネット情報も見ない若者は、消費者力も欠如していることが多く消費者被害にあいやすくなっている、リボルビング払いでの利息金額を分かっていない、また、雇用・請負労務等の知識不足によりブラックバイト等のトラブルにあいやすくなっているのだそうです。

続いて、事例発表のリレートークでは、マルチ商法、インターネットトラブル、奨学金問題、ブラックバイトについて男澤拓弁護士、佐々木悠輔弁護士、草刈翔平弁護士、太田伸二弁護士より発表がありました。

最後に、伊藤美由紀東北工業大学准教授から「学生と取り組



講師の細川幸一さん

む地域での消費者被害防止教育活動」について事例発表がありました。2008年に発足した仙台八木山防災連絡会の活動を出発点として、東日本大震災を経て、大学、地域包括支援センターや地域との協力活動の中から、学生による寸劇を通して消費者トラブルへの啓発活動が生まれてきている事例について紹介されました。(事務局 大場菊枝)

## 宮城県ユニセフ協会の活動

ユニセフ(UNICEF:国際連合児童基金)は、世界の子どもたちの命と健康を守るために活動する国連機関です。2011年4月1日より「公益財団法人日本ユニセフ協会協定地域組織 宮城県ユニセフ協会」と名称が変更になりました。県内唯一の団体としてユニセフの広報・啓発・募金・学習支援などを活発に展開しております。(設立:1995年 会員数:一般・学生193人 団体7)

### ● 夏休みユニセフ教室「親子で参加する外国コイン仕分け活動」

ユニセフでは、「外国コイン募金」に取り組んでいます。日本では、一部の紙幣を除いては両替できませんが、それぞれの国に戻れば立派な「貨幣」です。

7月30日(土)みやぎ生協文化会館ウィズを会場に、小学生親子など、ボランティアに80人が参加しました。仙台空港の「ユニセフ外国コイン募金箱」に、海外から帰国した方々が外国コインや紙幣を募金してくださっています。年1回収し、夏休みにボランティア活動として、国ごとに仕分けを行っています。

午前中は、ユニセフがどのような活動をしているか、今日の仕分け活動がどのように役に立つかを、ビデオ「新・ユニセフと地球のともだち」で学習しました。仕分けの手順を聞いて、6つのグループに分かれてコインの仕分けをしました。初めて見るいろいろな国のコインに驚きながら、サンプルのコインを見ながら仕分けに取り組みました。アメリカ、韓国、中国など1カカ国のコインを金種別に仕分けして、枚数を数えます。

昼食は、夏野菜のカレーとナン。みなさんから「おいしい!」と好評でおかわりする人もいま

した。デザートのカキや西瓜も好評でした。

午後は、学習とまとめの時間です。「経口補水療法」「水がめで水運び」「マラリア予防の蚊帳」を全員が体験しました。「100円でできること」をパネルシアターで学習しました。予防注射や経口補水塩、ビタミンAの購入に役立つことがわかりました。今日仕分けしたコインのゆくえ、ユニセフ募金の流れを学習し、「パソコン博士」より、集計した結果が発表されました。みなさんが数えてくれたコインの枚数は9,331枚で日本円に換算すると107,904円。紙幣と合わせると合計296,901円でした。仕分けしきれないコインも出しましたが、今年お預かりしたコインや紙幣は、公益財団法人日本ユニセフ協会へ送りました。

ご家庭に眠っている外国コインがあれば、ご寄付ください。宮城県ユニセフ協会へお送りいただくか、お近くのみやぎ生協の店舗サービスカウンターにお届けください。

世界の子どもたちの命と健康を守るため、ご協力をお願いします。(事務局長 五十嵐栄子)



外国コインの仕分けをする子どもたち

外国コイン 9,331 枚  
(日本円換算:107,904 円)

紙幣も含計すると...

296,901 円

#### 《参加者の感想》

- ♥ 今日の世界の困っている人たちのためにいろいろな出来て、とてもうれしかったです。これから少しでも役に立てるように、いろいろなことに挑戦していきたいです。(小6)
- ♥ いつも当たり前に使っている水や食べ物、学校に行っていることなど、当たり前でないことを知りました。これからは物を大切に、自分が生きている一日一日を大切にしたいです。(小5)
- ♥ 世界中で困っている子どもたちのことを考える時間をいただき、これからの生活の中で気にかけて、できることをしていきたいと思いました。



仙台空港に設置されているユニセフ外国コイン募金箱

## 公益財団法人 MELONの活動

公益財団法人みやぎ・環境とくらし・ネットワーク(Miyagi Environment Life Out-reach Network) MELONは、みやぎ生協・JA 宮城中央会・県漁協・県森連・日専連の県内で活動する協同組合が中心となって設立され、1995年12月に財団法人化し、2012年2月より公益財団法人に移行しました。MELONは、緑と水と食を通して地球と地球環境保全の活動を行なっています。会員数は個人569、法人67団体、任意団体11団体です。合計647です。(6/30現在)

### ● 親子でソーラーカーを作ろう！

7月23日(土)午前10時から、みやぎ生協文化会館ウィズにおいて、「親子でソーラーカーを作ろう！」を開催しました。

これはみやぎ生協が主催し、MELONが共催した親子向けの自然エネルギー講座で、40人の親子が参加しました。当日は、再生可能エネルギーについて知り体験することを目的に、自然エネルギーに関する講座を行い、ソーラーカーのキットを作成しました。

最初に、宮城県地球温暖化防止活動推進員の今野勇さんを講師に迎え、〇×クイズ形式で環境問題について学び、ソーラー



講師の今野勇さん

パネルの仕組みなどを説明していただきました。

次に、ソーラーカーキットを作成しましたが、作り始めると子どもたちの表情は真剣そのもので、細かい作業にも必死に取り組んでいました。

この日はあいにくの曇り空だ



親子でソーラーカー作りに取り組む様子

ったため、太陽の下で走らせてみることはできませんでしたが、作り終えた子どもたちは満足そうでした。

再生可能エネルギーの重要性や現状を知り、関心を持ってもらう良い機会になったと思います。

### ● **ご案内**「第21回 MELON 会員と市民のつどい MELON フェスタ」

MELONの会員同士や、会員と役員・事務局の交流を目的に開催している恒例のMELONフェスタ。もちろん、非会員のご参加も大歓迎です。

今年は、エル・パーク仙台に場所を変えて、今までより少し広い会場で開催します。

仙台で活動するゴスペルグループ「Ismile (アイスマイル)」のミニコンサートや、学生環境サークルのPRタイム、会員企

業・団体有志とMELONの部会・プロジェクトのブース出展など、盛りだくさんです。ぜひお越しください！

なお、ご不明な点は下記のMELON事務局まで、お問合せください。

(事務局統括 小林幸司)

#### 第21回 MELON 会員と市民のつどい MELON フェスタ

- ▶ 日時/2016年9月17日(土)  
13:30~16:00
- ▶ 会場/エル・パーク仙台6階  
ギャラリーホール
- ▶ 参加費/無料!

事前申込みは不要です。  
直接会場にお越しください。



## 行事予定

### 学習会 「家庭用エネルギーについて考える」

- 日時/2016年10月12日(水)  
10:00～11:30
- 場所/第2フォレストホール  
仙台市青葉区柏木1-2-45 フォレスト仙台 2F
- 定員/120人 ※託児あり、事前申込み要
- 参加費/無料

《申込み・問合せ》  
宮城県生活協同組合連合会  
TEL:022-276-5162 FAX:022-276-5160

持続可能な社会・地球のために、エネルギーを選択することが重要です。国のエネルギーの使い方は、私たちの選択で変わります。一緒に考えてみませんか？

#### ◇「私たちのエネルギー選択が 社会を変える！」

講師：日本生活協同組合連合会  
組織推進本部環境事業推進部  
部長 板谷 伸彦 さん

#### ◇「今年も生協の配達灯油で快適に！」

講師：コープ東北エネルギー事業本部  
燃料事業所統括 木村 孝 さん

**主催** 宮城県生活協同組合連合会・消費者行政の充実強化をすすめる懇談会みやぎ

### 学習会 「経済活動は誰のため？ 経済政策は何のため！」

- 日時/2016年11月16日(水)  
10:30～12:00
- 場所/日立システムズホール仙台  
シアターホール  
仙台市青葉区旭ヶ丘3-27-5  
(仙台市青年文化センター)
- 定員/500人
- 参加費/無料

《申込み・問合せ》  
消費税率引き上げをやめさせるネットワーク宮城  
事務局/TEL:022-276-5162 FAX:022-276-5160

年々増加してきて社会保障給付費と保険料の差を、“多くの借金”で賄っていると政府は言っていますが、そもそも借金とは何のことなのでしょうか？財政健全化のためには、本当に消費税増税しかないのでしょうか・・・？

講師：同志社大学大学院ビジネス研究科教授  
浜 矩子 さん

〈プロフィール〉  
一橋大学経済学部卒業。1975年、三菱総合研究所入社。ロンドン駐在員事務所所長、同研究所主席研究員を経て、2002年より現職。専攻はマクロ経済分析、国際経済。経済動向に関するコメンテーターとして内外メディアに執筆や出演。



**主催** 消費税率引き上げをやめさせるネットワーク宮城